



# 青春の フォトスケッチ

高校写真部の生徒が  
とらえた心に残る1枚



宇都宮北高校  
さくらば  
櫻場 聡子さん

## きら 煌めく笑顔

作者のコメント  
春の校内球技大会は、私たち3年生にとって、高校生活最後の思い出に残るもの。恒例のムカデ競争での楽しそうな笑顔を狙いました。

今、輝いてる市民

## はっらつ宮っ子

見えないものを見えるもので表現

文星芸術大学美術学部油画専攻助手 富井 綾子さん



80年以上の歴史を持ち、絵画・版画・彫刻など多岐にわたる美術団体「国画会」が主催する公募展「国展」。この絵画部門で、富井綾子さんの「ふたつ先の昨日」が大賞に当たる国画賞に選ばれました。応募総数は、1296点。初出品、20代での国画賞受賞は約20年ぶり。受賞の知らせを聞いたときのことを、「恥ずかしいくらい喜んでしまった」と思い返します。



「ふたつ先の昨日」

受賞した作品は、大学院の卒業制作のひとつで、学生時代の集大成でした。街並み、立ち上る雲、煙、竜巻など、今まで見た風景を集めて折り重ねました。この作品で表現したのは、「この先、自分の身に起こるもの、の不可思議さ」という目

に見えないもの。富井さんが描く絵は、絵としては目に見えない形で描かれているけれど、その後に隠れている表現したいものは、目には見えません。このような作風で描くようになったのは、新潟地震で被害を受けた街並みを見てから。崩れてしまうもろさと、それでも再生していく力強さを感じたことがきっかけとなったそうです。

「一生に1枚でいいから、見た人が涙を流してしまうような絵を描きたい」と語る富井さん。身近にあってほっとするけれど、存在感がある、そんな絵を目指して、1枚1枚描いていきます。